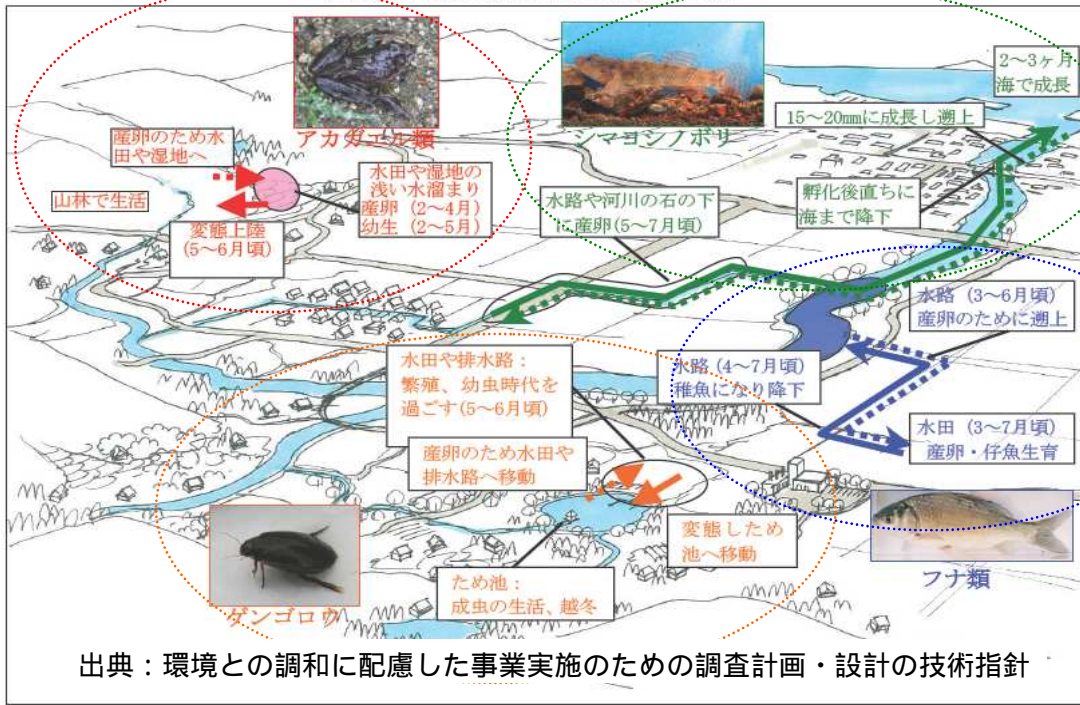


生き物の生活 と 生き物も棲みやすい田んぼづくり

生き物の生活

魚やカエル、昆虫などの生き物は成長にあわせて田んぼや水路、川、海、山を行ったり来たりして過ごしています。例えばフナのは仲間、普段は川や水路で底生動物やプランクトン、藻などを食べて生活していますが、春になると流れが緩く水の温かな浅瀬を探して田んぼや水路に移動し、水草などに卵を産みます。卵から孵った仔魚は、田んぼの周りで成長すると、夏の終わりには川や水路に移動して、そこで冬を越します。

[生物の生活史と移動経路との関係の例]



生き物も棲みやすい田んぼづくり

昔の田んぼは水路が浅くぬかるんでおり、農家の人たちは苦勞して米を作っていました。生き物たちは田んぼと水路、水路と川などを自由に行き来することができていました。

米作りがしやすいように、水路を深くしたり管にして埋めたりすると、農家の人たちはぬかるまない田んぼで機械作業ができたり、水道のように水の管理ができるようになりました。しかし、生き物たちは、水路から田んぼに行けなくなったり、水路自体が少なくなったりと生きていく環境が厳しくなってきました。

最近では人間も生き物もみんながずっと一緒に暮らしていけるようにと、米作りもやすく、生き物も棲みやすい田んぼづくりに向けて様々な工夫がされています。

水田魚道

水路に板をつけて田んぼと排水路を緩い勾配でつなぎ、フナやドジョウ、メダカが田んぼにのぼりやすいように工夫をしています。



階段式魚道

排水路を階段のようにして、排水路の段差を緩やかにしたもの。排水路に石を積んだり木の板を挟んだりして魚がのぼれる落差にします。



平成19年12月
作成：宮城県農業農村整備・広報広聴活動推進委員会
田んぼの生き物のマップ作成ワーキンググループ